

保育園等において予防すべき感染症と出席停止期間の基準

高岡市子ども・子育て課(令和4年4月)

※印は、医師の登園許可(園にある登園許可書に証明)が必要です。

◎印は、医師による登園許可書は必要ありませんが、登園再開時に保護者記入のインフルエンザ治癒報告書の提出が必要です。

番号	病名	潜伏期間	主な症状	感染経路	登園基準	予防接種・備考
1 ※	麻疹 (はしか)	8～12日	発熱、咳、鼻水、目やに、頬の内側に 白い斑点状コプリック斑ができる。 発熱後4日目より全身に発疹。	空気・飛沫 ・接触感染	解熱後3日経過していること	麻疹・風しん混合ワクチン 定期接種:2回 1期 1歳から2歳に至るまでの間 2期 年長児
2 ※	風しん (三日はしか)	16～18日	発熱と同時に顔に発疹。耳の後ろ・ 首・後頭部などのリンパ節の腫れ。	飛沫感染 接触感染	発疹が消えていること	
3 ※	百日咳	7～10日	感冒様症状から始まる。次第に咳が強くなる。 1～2週で特有の咳。咳は夜間に悪化する。 乳児期早期では無呼吸発作からチアノーゼ、 痙攣、呼吸停止となることがある。	飛沫感染 接触感染	7日間の抗菌性物質製剤 (=抗生剤)による治療終了 か、特有の咳が消え、全身 状態が良好であること	4種混合ワクチン(ジフテリア・ 百日せき・ポリオ・破傷風) 定期接種:初回3回 追加1回 計4回 生後3か月から7歳6か月に至るまでの間
4 ※	水痘 (水ぼうそう)	14～16日	水疱のある発疹が全身に次々とする。 痂皮化し先に出たものから治っていく。	空気・飛沫 ・接触感染	すべての発疹が痂皮化して いること	水痘ワクチン 定期接種:2回 1歳から3歳に至るまでの間
5 ※	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	16～18日	発熱。まず片側ないし両側のあごの後ろ が大きく腫れて痛む。食欲減退、嚥下困難。	飛沫感染 接触感染	腫れが出た後5日を経過 し、かつ全身状態が良好 であること	おたふくかぜワクチン 任意接種:2回 1歳以上
6 ※	咽頭結膜熱 (プール熱)	2～14日	発熱、のどの痛み、結膜の充血、 食欲不振が3～7日続く。涙が多くなる。	飛沫感染 接触感染	主症状消失後2日経過して いること	夏季に流行が見られるが、 一年を通して罹患する。
7 ※	流行性角結膜炎 (はやり目)	2～14日	涙、目やに、異物感、結膜充血。	飛沫感染 接触感染	医師により感染のおそれ がないと認められていること	極めて伝染力が強い。 タオル等の共用をしない。
8 ※	腸管出血性大腸菌 感染症(O157等)	3～4日	腹痛、血便、水様下痢便、嘔吐、発熱、 脱水症状。	経口感染 接触感染	医師により感染のおそれ がないと認められていること	
9 ※	急性出血性結膜炎	1～3日	急性結膜炎で結膜出血が特徴	飛沫・接触 ・経口感染	医師により感染のおそれ がないと認められていること	ウイルスは一カ月程度便中に 排泄されるので手洗いの励行。
10 ※	髄膜炎菌性髄膜炎	2～4日	頭痛、発熱、痙攣、意識障害	飛沫感染	医師により感染のおそれ がないと認められていること	髄膜炎菌ワクチン 任意接種:1回 2歳以上
11 ◎	インフルエンザ	1～4日	突然の高熱が3～4日間続く。全身症状(全身 倦怠感、関節痛、筋肉痛、頭痛)を伴う。 咽頭痛、鼻汁、咳嗽	飛沫感染 接触感染	発症後5日を経過し、か つ解熱した後3日を経過 していること	季節性インフルエンザワクチン 任意接種:2回 生後6か月から接種可能
12	溶連菌感染症	2～5日	突然の発熱、咽頭痛を発症、しばしば 嘔吐を伴う。痒みのある発疹が出現。	飛沫感染 接触感染	抗菌薬の内服開始後24時間 以上経過し、全身状態が良 好であること	
13	伝染性膿痂症 (とびひ)	2日～10日	虫さされ、湿疹を掻いた後、水疱の ある湿疹ができる。かゆみを伴う。	接触感染	びらん面が乾燥しているこ と	湿潤部位はガーゼで覆い、他の 児が接触しないようにする。
14	感染性胃腸炎	(ロタウイルス) 1～3日 (ノロウイルス) 12～48時間	冬に多発。下痢、嘔吐、軽度の発熱。 (ロタウイルス、ノロウイルスなど)	経口感染 接触感染 食品媒介感染	発熱や嘔吐がなく、普段の 食事ができること	ロタウイルスワクチン 定期接種:生後6週から生後24～ 32週までに完了 排便後の便(オムツ)、嘔吐物 の処理や手洗いの徹底。
15	マイコプラズマ肺炎	14～21日	咳、発熱。解熱後も咳が3～4週間持続する。	飛沫感染	発熱・激しい咳が治まっ ていること	
16	突発性発しん	約10日	高熱が続く。解熱後体幹部を中心に鮮紅色の 発疹出る。	飛沫・接触 ・経口感染	解熱後1日以上経過し、全 身状態が良好であること	
17	手足口病	3～6日	口内、手のひら、足の裏、臀部、膝 に小さな水疱。発熱を伴う。	飛沫感染 接触感染 経口感染	発熱がなく(解熱後1日以 上経過し)、普段の食事が できること	無菌性髄膜炎の恐れがあるの で、頭痛に要注意。
18	伝染性紅斑 (りんご病)	4～14日	軽い風邪症状後両頬に紅色斑や四肢に網目状 の発疹。痒みほてり。	飛沫感染	全身状態が良好であること	発疹が出た時ウイルスの排出 は、ほとんど終わっている。
19	ヘルパンギーナ	3～6日	発熱1日または無。口の中に小さな水疱、 潰瘍ができ、痛い。	飛沫・接触 ・経口感染	発熱がなく(解熱後1日以 上経過し)普段の食事がで きること	夏季に流行。 排泄物の取り扱いに注意。
20	RSウイルス感染症	4～6日	発熱、鼻汁、咳嗽、喘鳴、呼吸困難	飛沫感染 接触感染	全身状態が良好であること	非常に感染力が強いので施設内 感染に注意が必要。 排泄物の取り扱いに注意。
21	帯状疱疹	不定	神経痛、刺激感を訴える、小児では掻痒を 訴える場合が多い。	接触感染	全ての発しんが痂皮化して いること	水痘の免疫のない児が帯状発疹 の患者に接触すると水痘を発症 する。
22	アタマジラミ	10～14日 (成虫まで 2週間)	耳の後ろ、後頭部を痒がる。卵は髪 の生え際、耳の後ろ、後頭部に産みつけら れる。一見ふけのようだが、払っても 落ちないのが特徴。	接触感染	駆除を開始していること	頭を近づけ遊ぶ時や午睡時など 伝播しやすい。家族内でも伝播 するので家族同時に駆除する ことが重要。

参考 保育所における感染症対策ガイドライン(厚生労働省)

☆ 予防接種はお子さんの体調のよい時に、かかりつけ医と相談して受けましょう。

